第３回トリニダード・トバゴ日本語弁論大会の開催

２０２０年８月２１日、第３回トリニダード・トバゴ日本語弁論大会がオンライン形式で開催され、９人が参加しました。この大会は、日本大使館と西インド諸島大学（ＵＷＩ）セントオーガスティン校言語学習センター（ＣＬＬ）との共催で、日本国際交流基金後援、カリビアン・ガス化学社（三菱３社が７０％出資）の協力を得て行われました。

カーターＣＬＬ所長及び平山大使の開会スピーチの後、審査員（国際交流基金メキシコ事務所から佐藤五郎上級日本語専門家及び佐藤志穂日本語専門家、青柳カリビアン・ガス化学社社長、平山大使夫人）の紹介に続き、初級レベル３人、特別カテゴリー（日本の滞在歴１年以上）２人、中級レベル４人の出場者が熱弁を奮いました。今回は、スピーチは事前に各自が収録したビデオを上映し、その後ライブでの質疑応答が行われました。

特別カテゴリーでは、元ＪＥＴプログラム参加者のザイナブ・ナキッドさんがインターネットより世界中での連絡が可能となったことのメリット、デメリット等を文化、言語、経済等の観点から、自身の見解を主張し、優勝しました。

中級レベルでは、国際協力推進協会（ＡＰＩＣ）招聘事業による訪日経験があるアイダン・ロバーツさんがトリニダード・トバゴを代表する楽器であるスティールパンが開発された歴史、背景等を説明し、その影響力や素晴らしさと魅力を紹介し、優勝しました。

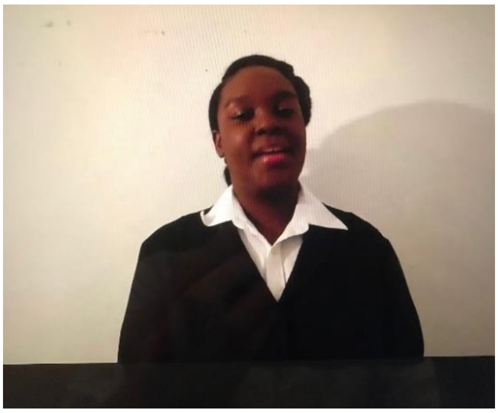
初級レベルでは、同じくＡＰＩＣ招聘事業による訪日経験があるガブリエル・モティラルさんが外国語を学ぶ意味を、自身の海外での経験等を織り交ぜながら、外国語学習は、人生の質を高め、意義深いものにしてくれると主張し、優勝しました。

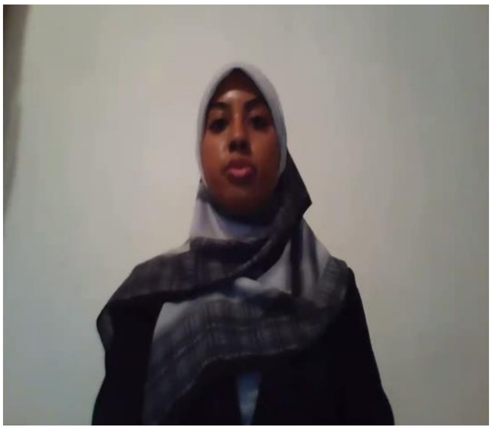
審査委員長を務めた佐藤五郎上級専門家からは、全体好評として、スピーチ作成、実演の際の助言の説明があり、日本語学習者にとって有益な機会となりました。

今回は、コロナ禍の影響の下でオンライン開催となりましたが、参加者は日本を含めて地域的な広がりを見せ、７１人の参加がありました。

Ambassador Hirayama gives his remarks

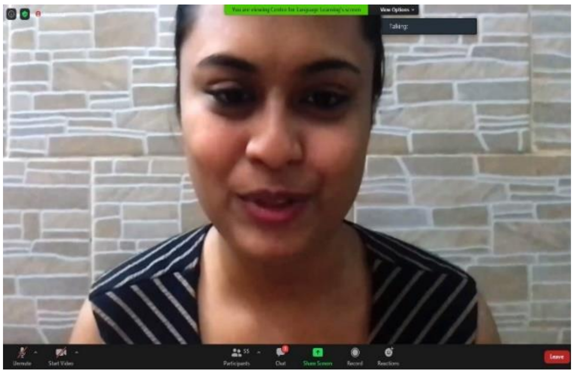
Dr. Carter, Director of the Centre for Language Learning gives remarks

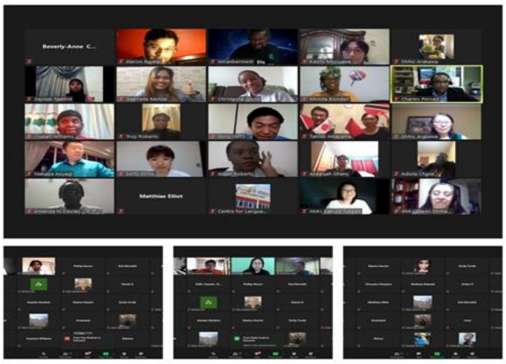




Ms Aidan Roberts - First Place Winner of the Intermediate Level

Ms Zaynab Nakhid - Winner of the Special Category





Ms Gabrielle Motilal - First Place Winner of the Elementary Level

Screen Grabs of the Zoom Contest